



たんぽう つばさの食支援探訪



管理栄養士 梅木 麻由美

2017年7月につばさの食支援が始まって2年が経ちます。診療だけでなく、NSTチームも小児から高齢者の方まで幅広く対応させていただいております。

今回は、普段はクールで笑顔がとっても可愛い、この4月から小学校に通い始めたR君への食支援を紹介します。R君はミキサーにかけた食事をお口と胃瘻から食べています。お悩みは体重が増えにくいこと、給食が進まないこと…。

そこで先日、学校の給食を見学させていただきました。(私が学生当時はミキサーの給食はなかったです！)

R君の成長に見合った栄養量、安全に美味しく食べるための食事形態にどう調整できるか。

後日ご自宅でお母さんと愛犬コナンちゃんも一緒に相談。少ない量で栄養を増やすには？簡単に水っぽい食べ物をとろっとさせるには？

学校だけでなく、自宅で出来ることは？…まだまだ模索中です！

また、昨今では学校から防災かばんを各自で準備するよういわれており、その中身に「食料3日分」というのがあります。R君にとってこういった食品を入れたらよいか、非常食のアレンジも一緒に考えさせていただきました。

災害時の対策について改めて考えさせられる機会になりました。



R君には当院のSTもサポートさせてもらっており、この一年で出来ることもたくさん増えました。成長・発達を毎回確認します！



医療的ケア児の食支援も少しずつ増えてきています。毎回新たな発見があり、こちらも勉強させていただいています。少しずつ広まってきた食支援ですが、なんとこの6月から管理栄養士が岡山・倉敷合わせて4名になりました！ますますパワーアップしたNSTチームは、それぞれの個性に合わせてサポートができるようにしていきたいと思っております。お悩みがありましたら、お気軽にご相談下さい！

2019年7月発行 第31号

つばさ新聞



理事長のコメント

日に日に暑さが厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？さて、5月24日に「第5回つばさ連携の会 in 岡山～ダイニングつばさ～」開催いたしました。在宅医療に携わる多くの医療・介護関係の方々にご参加頂き、職種や事業所の垣根を越えた大変有意義な時間を共有する事が出来ました。誠に有難うございました。

今後も地域の在宅医療を支えるために、このような医療と介護の顔の見える連携を目的とした、様々な活動に取り組んでいく所存です。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

今後ともご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(医療法人つばさ 理事長 中村幸伸)

西日本豪雨災害から1年・・・在宅患者の災害対策を考える



先日、当院主催の勉強会【KHM】を、「在宅患者の災害対策を考える」というテーマで開催しました。地域の医療・介護事業者約70名の方にお越しいただきました。昨年の豪雨災害での気づきや課題を整理し次に災害が起きた際に我々医療・介護事業者が、また地域住民の一人として、どのような行動をすべきなのかについて考えました。日頃からの備え(警戒警報の知識・マイタイムラインの活用、ハザードマップの確認など)を大事に防災意識を高めていきましょう。



※マイ・タイムライン・・・これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画

つばさクリニック

定期訪問 午前9時～午後5時 緊急往診 24時間対応

診療科目 訪問診療・内科
循環器科・呼吸器科・整形外科
〒710-0047

岡山県倉敷市大島534-1
TEL 086-424-0283
HP: www.tsubasa-clinic.net

つばさクリニック岡山

診療科目 訪問診療・内科・小児科

〒700-0026
岡山県岡山市北区奉還町1-7-7
TEL 086-254-0283
www.tsubasa-okayama.net

職種紹介 【その3 診療アシスタント】

今回は当院の診療（メディカル）アシスタント（以下 MA）についてご紹介いたします。

MAは、医師・看護師とともに診療チームの一員として行動する「事務系」の職種です。

主な業務は大きく分けて

「ドライバー業務」「診療介助」「事務処理」の3つです。

■ドライバー業務

訪問診療ですから、患者様の生活の場に診療チームが辿り着かなければ何も始まりません。MAはそういう自負のもと、安全第一に運転してお伺いしています。

現地の写真が入った詳細な地図を作り、MAメンバーと情報共有し、周辺の交通状況やアプローチの仕方など、安全運転に繋がる情報の把握に努めています。

■診療介助

医師や看護師の指示のもと、診療に必要な器具出し（体温計や血圧計など）のサポートをします。診療車に積んでいる酸素ボンベなどが必要になれば、速やかに持ってきます！患者様の為にキビキビ動きます！

また、ポータブルレントゲンの運搬と組み立てなどもします。

■事務処理

現場では診療記録や院外処方箋を印刷する為にプリンターの準備をします。

院内では、現場で撮影した書類などの印刷やカルテの取り込みなども行っています。

その他に、診療車の洗車やタイヤ交換などの車両管理、クリニックの蛍光灯交換などの建物安全管理など、幅広い業務を行っています。

そう、患者様の誕生日写真のカメラマンもします！これは業務というか…いい写真が撮ればいいなと思いつつ楽しんでさせていただいていますね。

MAは倉敷に6名、岡山に5名います。平均年齢は…

見た目通りでございますが（笑）、頑張っています！

何よりも我々 MA の仕事が、医師や看護師を通じて患者様やご家族様の「安心」に繋がることであれば、とてもうれしく思います。これからもよろしくお願ひします。



診療アシスタント主任 高橋 喜文



Dr. 武藤の

医療四方山話 ～緩和とは～

今日本では3人に一人ががんで亡くなると言われています。この記事を読んでおられる方も身近にがんの患者さんがおられるかもしれませんね。がんの「治療」というと皆さんはどんなイメージを持っておられるでしょうか？がんの「治療」には、「がん」そのものを取り除いたり、小さくしたりする治療とがんから起こってくる様々な苦痛を和らげる治療があります。

手術・抗癌剤・放射線治療など皆さんがよくご存じの治療が前者に当たります。そして後者の「苦痛を和らげる治療」のことを「緩和ケア」といいます。

ですから、「緩和ケア」はそれほど特別なことではありません。抗癌剤を処方している内科の先生が痛み止めを処方すれば、それが広い意味での「緩和ケア」です。

また、がんにかかるると様々な精神的な苦痛も起こってきます。多くの医師はその際手助けになるアドバイスや声掛けをしてくれるのではないのでしょうか？

これも「緩和ケア」です。ただ、痛み止めを上手に使ったり、がん患者さんの精神的苦痛に対処するためには、ある程度の知識が必要です。そのため、現在では厚生労働省が「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を開催していて、緩和ケアが日常的に提供されるよう力を尽くしています。

最近では「緩和ケア」を専門的に提供する「緩和ケア科」のある病院もありますし医師や看護師などがチーム医療で緩和ケアを提供する「緩和ケアチーム」を持っている病院もあります。そして緩和ケアを専門的に提供する病棟を「緩和ケア病棟」あるいは「ホスピス」といいます。また緩和医療学会が、緩和ケアの専門的な知識を持っている医師を「専門医・認定医」として認定しています。

「緩和ケア」は特別なことではなく、がんに伴う苦痛を和らげること全般のことのでがんのどのような時期、早期であっても受けるべきものと言えます。

新人職員紹介

医師

おなか さちこ
尾中 祥子

出身は山口県で倉敷市は初めてですが住んでみたかった町なのでとても楽しみです。ご利用者さんとご家族が少しでも快適に不安なく過ごしていただけるようお手伝いができればと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



医師

みやけ こうし
三宅 剛司

生まれも育ちも倉敷です。患者さんとご家族の思いに寄り添った医療を提供できるように努めたいと思います。未熟者ですが、何卒宜しくお願いします。



看護師

つばと ももこ
津田 朋子

笑顔をもっとにひとつひとつ丁寧に取組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



管理栄養士

もりや あつこ
守屋 敦子

住み慣れた場所で「美味しい」「よかった！」のお手伝いができればと思います。よろしくお願ひします。



管理栄養士

さとう ようこ
佐藤 洋子

在宅で「食」を支える管理栄養士として挑戦したいと思い、津山から倉敷市へ移住しています。よろしくお願ひします。

